

平成28年度茨城県教育研究会アンケート結果

平成28年7月8日までの集計データ

茨城県教育研究会 組織活性化委員会

回答校数 小学校 442/502校, 中学校 199/227校, 合計 641/729校 (回答率88%)

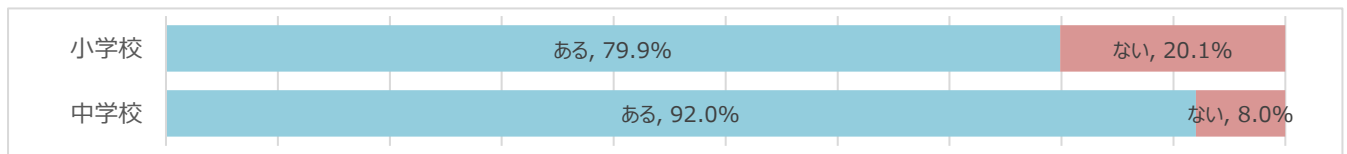
回答者は、各学校の教務主任等

1 学力向上のための授業改善について

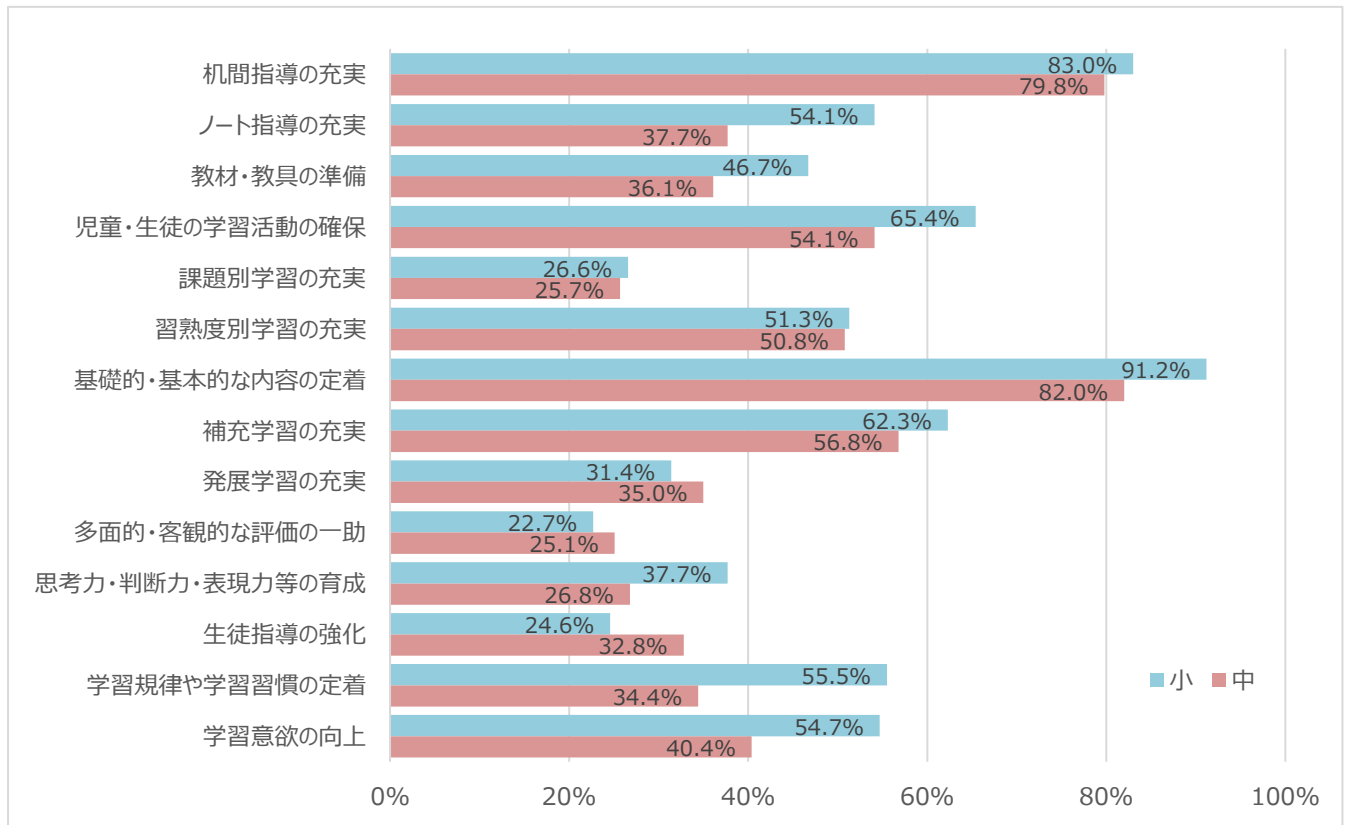
I 少人数指導の充実について

※ 少人数指導のための教員等とは、県費の少人数指導加配、小学校の学級づくり非常勤講師、中1スタート支援事業の非常勤講師並びに市町村等の負担による教員

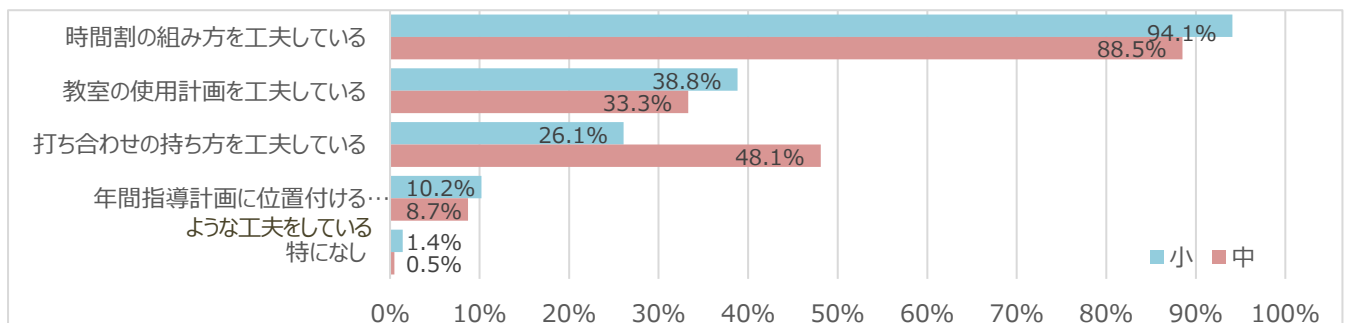
1 現任校は、少人数指導のための教員等が配置されていますか。



2 現任校での、少人数指導による成果をどのように捉えますか。(複数回答可)



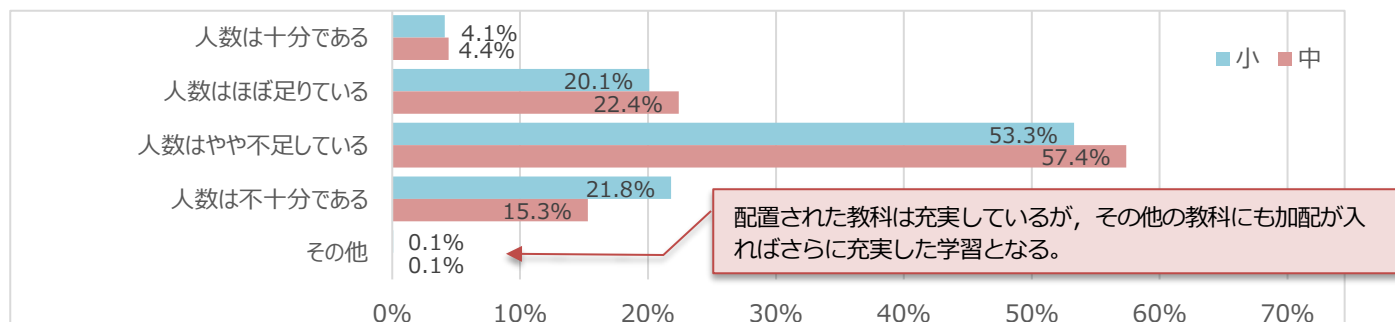
3 現任校において、少人数指導を効果的に進めるために工夫していることをお答えください。(複数回答可)



上記の具体例やその他の工夫例をお答えください。

- ・学習計画表を利用して進度を合わせている。
- ・週に高学年 5 時間、中学年 4 時間、低学年 3 時間 TT が組めるように、時間割を工夫している。
- ・ICT 教育機器の活用、教材の工夫、国語・算数での少人数指導ができるように時間割を組んでいる。

4 現任校において、少人数指導について、配置人数の現状についてどう思いますか。



5 現任校において、少人数指導の課題は何ですか。ご自由にお書きください。※詳しくは、別紙参照

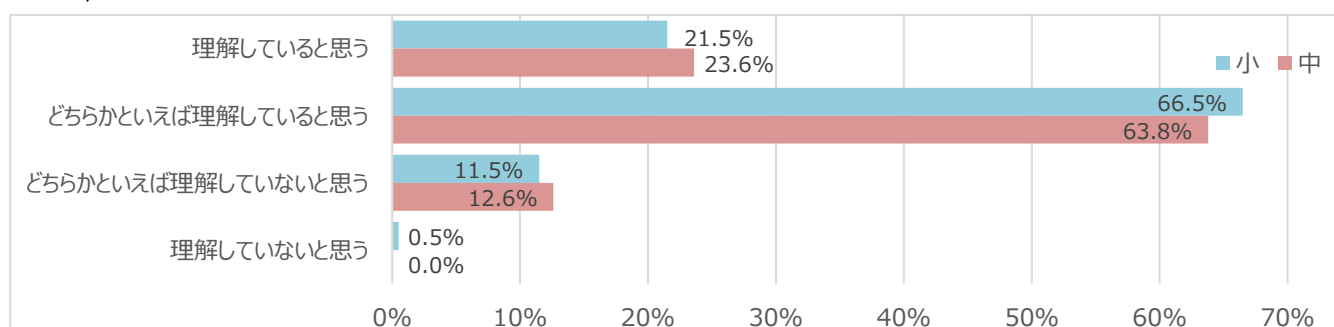
- ・打ち合わせの時間の確保
- ・配置人数が少ない（算数だけでも全時間実施できない）
- ・学習評価へのかかわり
- ・習熟度学習に対する保護者の理解
- ・空き教室の不足
- ・授業進度の調整（中学校）

6 今後の少人数指導の在り方について、あなたが思うことや考えていることを、ご自由にお書きください。

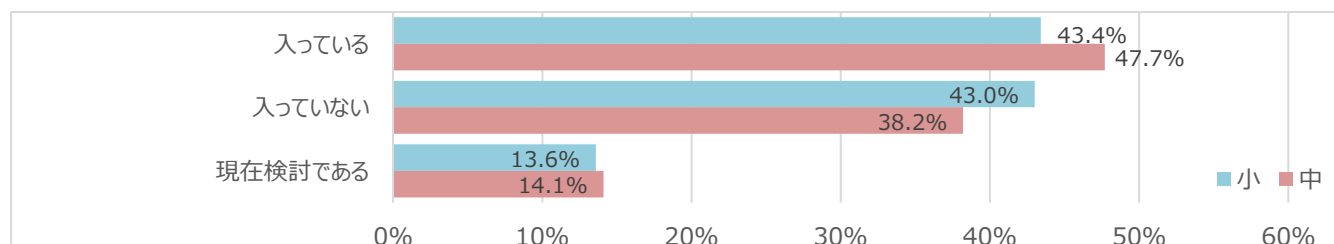
- ・基礎・基本の徹底とアクティブ・ラーニングや学び合い等が活性化できる。
- ・基礎学習や補充学習だけでなく発展学習の充実も大事である。
- ・30人以下学級の方が効果的ではないか。

II アクティブ・ラーニング（課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）について

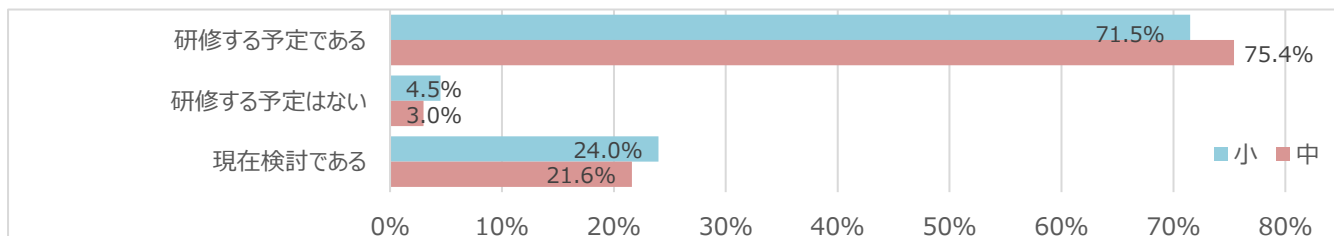
1 あなたの学校の教職員は、アクティブ・ラーニング（課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）について、どの程度理解していると思いますか。



2 あなたの学校では、今年度の校内研修テーマの中に、アクティブ・ラーニングという内容（文言）が入っていますか。



3 あなたの学校では、今年度の校内研修において、アクティブ・ラーニングについての研修を予定していますか。

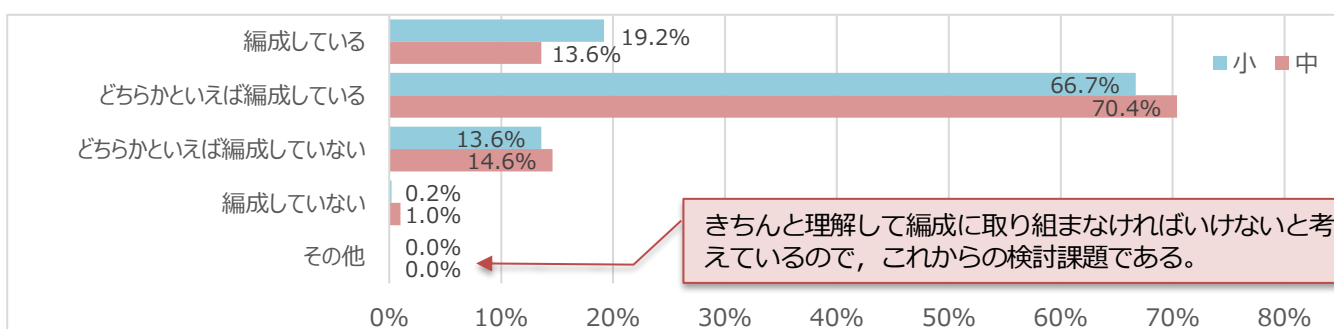


4 アクティブ・ラーニングを推進していくために、何が大切だと思いますか。ご自由にお書きください。※詳しくは、別紙参照

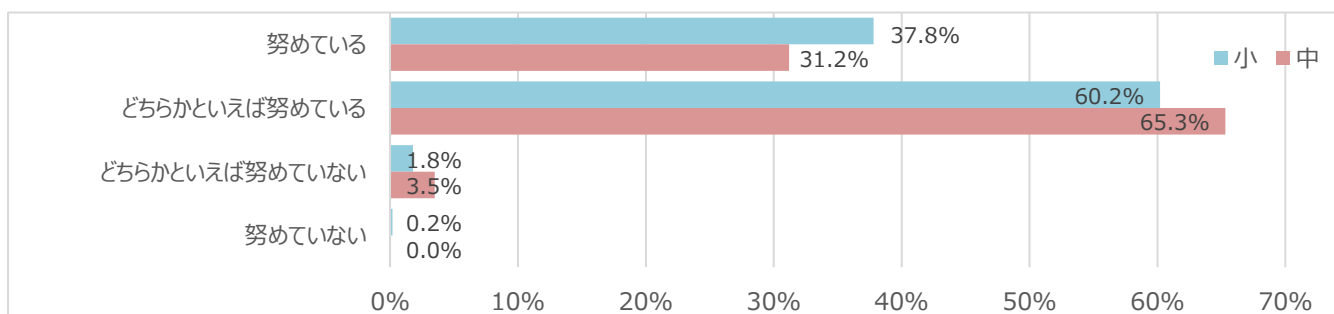
- ・校内研修において全職員で共通理解を図り、授業の改善を図っていくことが望ましい。
- ・校内研修の充実。
- ・協働的な学びができるような学習課題の設定。
- ・教師の一斉授業からの脱却。
- ・教師の意識改革。
- ・アクティブ・ラーニングについての教師の十分な理解。
- ・モデルとなるような授業の参観。

Ⅲ カリキュラム・マネジメントについて

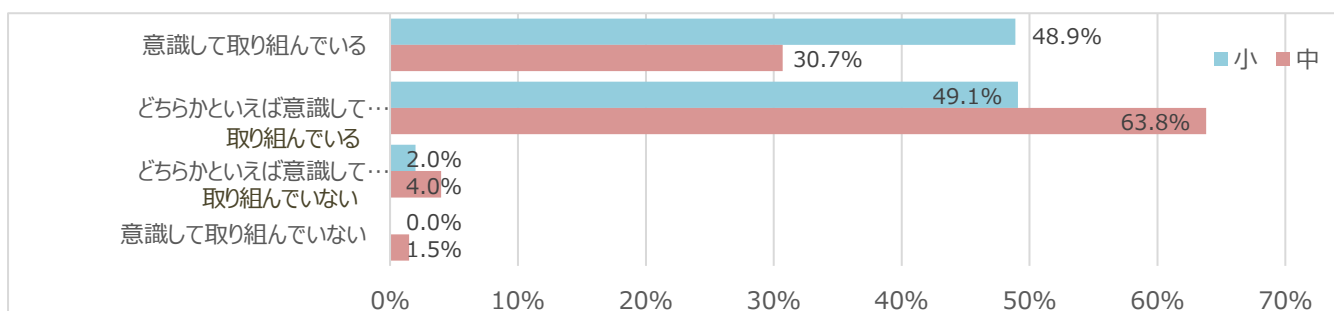
1 あなたは教務主任として、「社会に開かれた教育課程」を念頭に置きながら、カリキュラム・マネジメントを意識して、教科横断的な視点で教育課程を編成していますか。



2 あなたは教務主任として、教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価し、改善を図る、一連のPDCAサイクルの確立に努めていますか。



3 あなたの学校では、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせようと意識して取り組んでいますか。

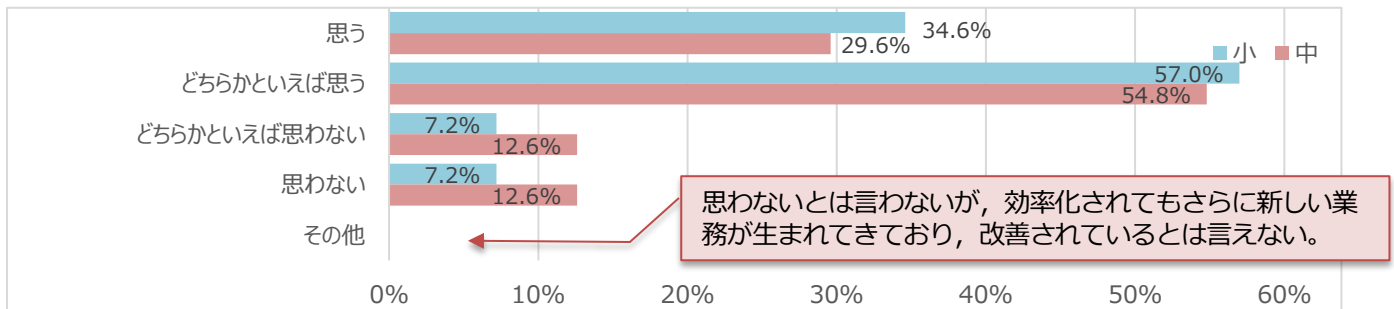


2 茨城県教育研究会の事業等について

茨城県教育研究会は「業務の効率化」の目的から、各研究部の活動について、平成25年度から次のように変更いたしました。

「重点指定年度」を隔年とし、「重点指定年度」以外の研究部は事業等を一切実施しないこと、例外として、年度始・年度末の郡市部長会議のみを実施する。また、各研究部において、重点指定によらずに、毎年実施しなければならない事業については、特別事業として取り扱う。さらに、重点指定年度の研究部の予算は30万円、重点指定年度ではない研究部の予算は3万円としました。

1 上記の変更は、「業務の効率化」に結びついていると思いますか。



2 茨城県教育研究会が会員の皆さんにとって活動の拠点となり、有意義で役に立つ組織でありたいと願っています。そこで、「会員のためのよりよい教育研究会」にするために、要望や提案等がありましたらお書きください。※詳しくは、別紙参照

- ・さらに業務の効率化を進めてほしい（発表依頼は早めに、部会等の運営人数の削減等）
- ・茨城教育研究会の事業の効率化だけでなく、国、県、事務所、市町村等の事業の削減と並行して実施していく必要があるのではないか。
- ・時代の変化に対応し、先を見通し、教育課題に効果的な手立てを取れる教育研究会であってほしい。
- ・必要な情報を実践に結びつく形で提供してほしい。先進的な取り組みについての実践事例等の情報発信。
- ・教育論文に関して、研究データを共有するシステムを構築する。
- ・県の教育研究会の活動について、先生方の理解を深めるための取組も必要。

平成28年度茨城県教育研究会アンケート結果

(自由記述から主なものを転記しました)

茨城県教育研究会 組織活性化委員会

1 学力向上のための授業改善について

1 少人数指導の充実について

現任校において、少人数指導の課題は何ですか。ご自由にお書きください。

○ 打ち合わせの時間の確保が難しいこと

- ・打ち合わせをする時間を確保できれば、より児童に応じた支援の方法などを考えることができる。
- ・複数の教師で授業を並行して進めるため、綿密な打ち合わせが必要であり、その打ち合わせを行う時間を捻出することが課題である。
- ・少人数を担当している方が非常勤講師であり、放課後は退勤するので、打ち合わせの時間が十分に取れないこと。

○ 配置人数が少ないこと

- ・学級数が多いため、全学年対象に少人数指導を実施することができない。
- ・配置人数が一人のため、週のすべての時間にかかわることができないので、せっかく高まった子供の意欲の維持が難しい。
- ・算数科で実施しているが、指導者に時数制限があり、すべての授業に配置できていない。
- ・本校では算数にしばって少人数指導を進めているが、他教科にも広げられると児童の学力の向上が図れると考えます。

○ 支援を要する児童生徒が多いこと

- ・個人差が大きく、個に応じた対応をするための人数が必要である。
- ・各学年・学級において、個別に学習支援の必要な児童が多数いること。

○ 学習評価へのかかわり方が難しいこと

- ・児童の学習評価について、少人数指導担当はどう関わるか。
- ・多面的・客観的な評価の共有とそれを生かした授業改善をどう進めていくか。

○ 空き教室が不足していること

- ・習熟度別の学習を展開するための教室（場所）がほしい。
- ・使用可能な教室がないために、課題別学習や習熟度別学習等の少人数指導が組めない。

○ 授業進度の調整が難しいこと

- ・グループ別に授業を進めている状況で、進度の違いが生じた際の調整方法が課題である。
- ・学級を分割して学習班を編成しているが、学習進度の調整が難しい。

○ その他

- ・指導や支援について共通理解を図ることが難しい。
- ・学級担任との連携の仕方
- ・持ち時間が多く、担当者の負担は大きい。
- ・少人数指導加配教員の年度による加配の有無により、指導計画が大きく変わってしまうので、数年間を見通した指導計画が立案できない。
- ・校外学習への参加が限られてしまうこと
- ・TTによる少人数指導を行っているが、その成果を数値によって計ることはできていないため、十分な成果について把握はできていない。
- ・時間割の編成が複雑で、何度も修正が必要になる。

II アクティブ・ラーニング（課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）について

アクティブ・ラーニングを推進していくために、何が大切だと思いますか。ご自由にお書きください。

○ 校内研修の充実

- ・アクティブ・ラーニングについての校内研修をもち、全職員で共通理解を図り、授業の改善を実践することが大切だと思う。
- ・アクティブ・ラーニングを軸とした授業づくりの研修会を多く実施すること。
- ・校内研修を充実させる。教職員の授業改善に向けて、研究授業や協議会を実施し、指導力の向上を図る。
- ・「活動あって学びなし」とならないように、全職員でアクティブ・ラーニングの定義や意義について研修を進め、実践の中で授業改善に努めていく。

○ 協働的な学びができるような学習課題の設定

- ・探求的な課題の設定と児童生徒の「学び合い」の充実。
- ・児童生徒が自ら進んで課題解決していこうと意欲をもてるような課題設定の工夫が大切である。
- ・生徒にとって追究したい価値ある課題の設定。
- ・必然性と目的意識のあるグループ学習。

○ 教師の一斉授業からの脱却

- ・学習者中心の授業スタイルへの移行。一斉授業型からの授業改善。
- ・主体性を育てるための教育課程の工夫。
- ・従来の教え込む授業ではなく、基礎基本をしっかりと押さえた上で、個や小集団で協働し課題を解決していくことが重要かと思います。
- ・生徒主体の授業を念頭に、教員自身が普通の授業改善に主体的に取り組むこと。

○ 教師の十分な理解

- ・アクティブ・ラーニングを学校としてどう捉え、授業者としてどう推進していくか共通理解・共通行動を図るとともに、本校なりのアクティブ・ラーニングの姿を追究していくこと。
- ・教師自身がアクティブ・ラーニングとは何かを理解すること、そして、児童が意欲をもって取り組める課題の設定や話し合いのさせ方を理解し、実践することだと考えている。

○ モデルとなるような授業の参観

- ・先進校での授業参観等による職員研修の充実。
- ・先進校の参観を通して、職員のアクティブ・ラーニングへの理解を高めること。

○ 教師の意識改革

- ・教師の一人一人の意識改革が大切だと思う。従来の一斉授業は確かに画一的に授業を進めることは可能である。しかし、個に応じた指導や児童生徒のモチベーションを高める授業は難しく、結局、学力向上に結びつかないことを教員一人一人が理解することが大切だと考える。
- ・先生方の共通理解と意識改革。教師集団も学び続ける集団にならないと全学年・全学級での推進は難しい。

○ その他

- ・教職員が教材研究を充実させるための時間の確保。
- ・ICTの活用など教育環境の整備。
- ・小学校における技能教科の専科制。
- ・学習規律の定着や学級経営の充実。
- ・学習への興味関心を高めること。
- ・授業における教師の働きかけ方や言葉がけの研修及び児童のコミュニケーション力の育成。
- ・言語活動を充実させ、思考力・表現力の育成を図る。
- ・知識を活用する力である「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」の前提となる基礎的・基本的な学力・学習意欲の向上。
- ・今まで行ってきた、主体的な問題解決学習や協働的な学びを、アクティブ・ラーニングの視点から捉え直したい。
- ・「受容的・協働的な学級づくり」を目指し、ルールやリレーションが整った温かみのある学習環境が確立されることが大切だと思う。
- ・小中学校の連携・連動により目指す児童像・生徒像のイメージを共有すること。
- ・教師がしゃべりすぎないこと、生徒を信じて任せること。

2 茨城県教育研究会の事業等について

茨城県教育研究会が会員の皆さんにとって活動の拠点となり、有意義で役に立つ組織でありたいと願っています。

そこで、「会員のためのよりよい教育研究会」にするために、要望や提案等がありましたらお書きください。

○ 業務の効率化

- ・業務の効率化が必要だと思いますが、例えば、アンケートや調査の実施、行政から学校に依頼する新たな活動など、減らすことができる業務についても検討していただきたいと思います。
- ・業務の効率化を目指しながらも、有意義な研修はきちんと時間を確保してほしいと思います。
- ・「重点指定年度」の件については、非常にありがたいと思っています。情報の共有化など、業務の効率化をさらに進めることができればと考えます。

○ 新たな教育課題への対応

- ・道徳の教科化があり、研修の機会を増やしていただけるとありがたいです。
- ・これからも時代のニーズに合った研修を企画していただけるよう、よろしくお願いいたします。
- ・若手教員のために、より充実した研修の機会を設定していただきたい。
- ・アクティブ・ラーニング等について、講師を招いての教育講演会を実施してほしい。
- ・研究発表会のみならず、実技講習会や伝達講習会など、自校に戻ってから実態に合わせて活用できる研修会を期待いたします。

○ 必要な情報の提供

- ・各専門委員会の情報が Web ページで確認できるとありがたいです。
- ・会員がもっと気楽に研究会の情報や資料（授業例や指導案、基礎確認プリント等）を見たり取り出したりできるコーナーがあるとよいと思います。
- ・各研究部が全県で実施した講演や講習等についての資料を各学校等に配布（メール等で）するのはいかがでしょうか。参加される先生方が限られ、資料等についても各学校に渡らない場合があるので。
- ・アクティブ・ラーニングや I C T 等、先進的な取組についての実践事例等の情報の発信をお願いできればありがたいと考えます。

○ 活動の周知

- ・一般会員の人たちに知られていないように思います。P R 活動が必要だと思います。
- ・勤務に追われて、新しい情報等を見聞する機会を逃してしまっているような気がします。大切な情報や重要なことを、情報として私たちに発信していただきたい。
- ・各研究部推進委員が県の事業を地区に伝達するとともに、会員全員が活動内容について理解できる体制の強化。

○ その他

- ・研究データを共有するシステムをつくるなど、もっと多くの教員が論文にチャレンジしやすくなるような工夫があればよいと思います。
- ・様々な研究において予算が必要になってくるが、それが不足しているので援助がほしい。
- ・授業する側が、即座に自分の授業に生かせるような機会をいただけるとありがたいと思います。今必要とされる授業づくりの基本となるものを学べる機会をつくっていただき、授業づくりにつながる研修会が催されることを希望します。
- ・現在、学校の予算が年々縮小傾向にある。会員が自主的な研修をするための資料の貸し出しや、授業に使える教材・教具の貸し出しができるようになると良い。
- ・一票（一校）の格差ではありませんが、市町村及び地区により学校数が違うのに、教研関係の出張、事業の役割分担が同じになっている部分が多いので、学校数が少ない町としては負担感が大きいです。改善していただけるとありがたいです。
- ・もう少し、研究会員同士の情報交換ができるシステムがあればと思います。例えば、ホームページ上の掲示板やメールの活用等できると良いと感じます。